

基本計画書

基本計画										
事項	記入欄								備考	
計画の区分	研究科の専攻の設置									
フリガナ設置者	コリクガク 信クホジノトヤマク 信ク									
フリガナ大学の名称	トヤマク 信クガク 信クイン 富山大学大学院 (Graduate School, UNIVERSITY OF TOYAMA)									
大学本部の位置	富山県富山市五福3190									
大学の目的	富山大学は、地域と世界に向かって開かれた大学として、生命科学、自然科学と人文社会科学を総合した特色ある国際水準の教育及び研究を行い、人間尊重の精神を基本に高い使命感と創造力のある人材を育成し、地域と国際社会に貢献するとともに、科学、芸術文化、人間社会と自然環境との調和的発展に寄与することを目的とする。									
新設学部等の目的	本学大学院看護学専攻博士後期課程は、豊かで幅広い学識と高度な問題解決能力を有する人材育成を目指し、看護の教育・研究基盤を確立するため、知の統合・創生と実践を改革・開発・創造でき、国内外の生活文化に貢献しうる実践的研究者を育成する。									
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地		
	医学薬学教育部 (Graduate School of Medicine and Pharmaceutical Sciences for Education) 博士後期課程 (Ph. D. Program) 看護学専攻 (Department of Nursing Science) 計	年	人	年次人	人	博士 (看護学)	平成27年4月 第1年次	富山県富山市 杉谷2630番地		
	【基礎となる学部・教育部】医学部看護学科、大学院医学薬学教育部看護学専攻（修士課程） 14条特例の実施									
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)	修士課程を博士前期課程に改める									
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数					卒業要件単位数			
	看護学専攻（博士後期課程）	講義	演習	実験・実習	計	20単位 7科目				
教員	学部等の名称		専任教員等						兼任教員等	
			教授	准教授	講師	助教	計	助手		
	新設分	医学薬学教育部	人	人	人	人	人	人	人	
		看護学専攻（博士後期課程）	8 (8)	7 (7)	0 (0)	0 (0)	15 (15)	0 (0)	0 (0)	
		計	8 (8)	7 (7)	0 (0)	0 (0)	15 (15)	0 (0)	0 (0)	
	員	人文科学研究科		人	人	人	人	人	人	
		人文科学専攻（修士課程）		39 (39)	26 (26)	0 (0)	0 (0)	65 (65)	0 (0)	0 (0)
		計		39 (39)	26 (26)	0 (0)	0 (0)	65 (65)	0 (0)	0 (0)
		人間発達科学研究科		人	人	人	人	人	人	
		発達教育専攻（修士課程）		14 (14)	12 (12)	1 (1)	0 (0)	27 (27)	0 (0)	0 (0)
発達環境専攻（修士課程）		24 (24)	16 (16)	2 (2)	0 (0)	42 (42)	0 (0)	0 (0)		
計		38 (38)	28 (28)	3 (3)	0 (0)	69 (69)	0 (0)	0 (0)		
経済学研究科		人	人	人	人	人	人			
地域・経済政策専攻（修士課程）		19 (19)	10 (10)	0 (0)	0 (0)	29 (29)	0 (0)	1 (1)		
企業経営専攻（修士課程）		20 (20)	6 (6)	0 (0)	0 (0)	26 (26)	0 (0)	0 (0)		
計		39 (39)	16 (16)	0 (0)	0 (0)	55 (55)	0 (0)	1 (1)		

組 既 設 分 織 の 概	芸術文化学研究科(修士課程)							
	芸術化学専攻	22 (22)	19 (19)	8 (8)	0 (0)	49 (49)	0 (0)	0 (0)
	計	22 (22)	19 (19)	8 (8)	0 (0)	49 (49)	0 (0)	0 (0)
	生命融合科学教育部							
	認知・情動脳科学専攻(博士課程)	8 (8)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	2 (2)
	生体情報システム科学専攻(博士課程)	10 (10)	2 (2)	3 (3)	0 (0)	15 (15)	0 (0)	0 (0)
	先端ナノ・バイオ科学専攻(博士課程)	7 (7)	3 (3)	1 (1)	1 (1)	12 (12)	0 (0)	0 (0)
	計	25 (25)	9 (9)	4 (4)	1 (1)	39 (39)	0 (0)	2 (2)
	医学薬学教育部						3 (3)	11 (11)
	医科学専攻(修士課程)	38 (38)	25 (25)	3 (3)	0 (0)	66 (66)	0 (0)	2 (2)
	看護学専攻(修士課程)	10 (10)	11 (11)	0 (0)	0 (0)	21 (21)	0 (0)	5 (5)
	薬科学専攻(博士前期課程)	23 (23)	25 (25)	1 (1)	0 (0)	49 (49)	0 (0)	1 (1)
	計	71 (71)	61 (61)	4 (4)	0 (0)	136 (136)	3 (3)	19 (19)
	医学薬学教育部							
	生命・臨床医学専攻(博士課程)	27 (27)	17 (17)	2 (2)	0 (0)	46 (46)	0 (0)	5 (5)
	東西統合医学専攻(博士課程)	6 (6)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	0 (0)
	薬学専攻(博士課程)	6 (6)	6 (6)	1 (1)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	1 (1)
	薬科学専攻(博士後期課程)	14 (14)	17 (17)	0 (0)	0 (0)	31 (31)	0 (0)	1 (1)
	計	53 (53)	44 (44)	3 (3)	0 (0)	100 (100)	0 (0)	7 (7)
	理工学教育部							4 (4)
数学専攻(修士課程)	11 (11)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	15 (15)	0 (0)	1 (1)	
物理学専攻(修士課程)	7 (7)	5 (5)	0 (0)	1 (1)	13 (13)	0 (0)	0 (0)	
化学専攻(修士課程)	7 (7)	6 (6)	3 (3)	1 (1)	17 (17)	0 (0)	0 (0)	
生物学専攻(修士課程)	6 (6)	3 (3)	1 (1)	1 (1)	11 (11)	0 (0)	0 (0)	
地球科学専攻(修士課程)	8 (8)	5 (5)	0 (0)	1 (1)	14 (14)	0 (0)	0 (0)	
生物圏環境科学専攻(修士課程)	8 (8)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	1 (1)	
計(理学系)	47 (47)	27 (27)	4 (4)	4 (4)	82 (82)	0 (0)	2 (2)	
電気電子システム工学専攻(修士課程)	11 (11)	7 (7)	3 (3)	2 (2)	23 (23)	1 (1)	0 (0)	
知能情報工学専攻(修士課程)	7 (7)	5 (5)	4 (4)	1 (1)	17 (17)	1 (1)	0 (0)	
機械知能システム工学専攻(修士課程)	10 (10)	6 (6)	4 (4)	2 (2)	22 (22)	1 (1)	0 (0)	
生命工学専攻(修士課程)	7 (7)	3 (3)	1 (1)	2 (2)	13 (13)	1 (1)	0 (0)	
環境応用化学専攻(修士課程)	6 (6)	5 (5)	1 (1)	2 (2)	14 (14)	0 (0)	0 (0)	
材料機能工学専攻(修士課程)	5 (5)	5 (5)	0 (0)	2 (2)	12 (12)	0 (0)	1 (1)	
計(工学系)	46 (46)	31 (31)	13 (13)	11 (11)	101 (101)	4 (4)	1 (1)	
計	93 (93)	58 (58)	17 (17)	15 (15)	183 (183)	4 (4)	7 (7)	
理工学教育部								
数理・ヒューマンシステム科学専攻(博士課程)	28 (28)	16 (16)	6 (6)	2 (2)	52 (52)	0 (0)	0 (0)	
ナノ新機能物質科学専攻(博士課程)	18 (18)	19 (19)	2 (2)	4 (4)	43 (43)	0 (0)	2 (2)	
新エネルギー科学専攻(博士課程)	15 (15)	10 (10)	4 (4)	6 (6)	35 (35)	0 (0)	2 (2)	
地球生命環境科学専攻(博士課程)	18 (18)	10 (10)	1 (1)	2 (2)	31 (31)	0 (0)	0 (0)	
計	79 (79)	55 (55)	13 (13)	14 (14)	161 (161)	0 (0)	4 (4)	

要	既設分	附属病院	4 (4)	7 (7)	29 (29)	51 (51)	91 (91)	0 (0)	0 (0)
		和漢医薬学総合研究所	7 (7)	5 (5)	0 (0)	10 (10)	22 (22)	0 (0)	0 (0)
		水素同位体科学研究センター	3 (3)	2 (2)	1 (1)	1 (1)	7 (7)	0 (0)	0 (0)
		極東地域研究センター	4 (4)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	6 (6)	0 (0)	0 (0)
		生命科学先端研究センター	0 (0)	4 (4)	0 (0)	1 (1)	5 (5)	0 (0)	0 (0)
		地域連携推進機構	3 (3)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	5 (5)	0 (0)	0 (0)
		その他のセンター等施設	8 (8)	8 (8)	3 (3)	1 (1)	20 (20)	0 (0)	0 (0)
		計	29 (29)	30 (30)	33 (33)	64 (64)	156 (156)	0 (0)	0 (0)
		合計	496 (496)	353 (353)	85 (85)	94 (94)	1,028 (1,028)	7 (7)	40 (40)
		職員	専任	兼任	計				
教員以外の職員の概要	事務職員	356 (356)	60 (60)	416人 (416)					
	技術職員	855 (855)	35 (35)	890 (890)					
	図書館専門職員	19 (19)	0 (0)	19 (19)					
	その他の職員	16 (16)	7 (7)	23 (23)					
	計	1,246 (1,246)	102 (102)	1,348 (1,348)					
校地等	区分	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計				
	校舎敷地	415,605 m ²	- m ²	- m ²	415,605 m ²				
	運動場用地	105,572 m ²	- m ²	- m ²	105,572 m ²				
	小計	521,177 m ²	- m ²	- m ²	521,177 m ²				
	その他	179,837 m ²	- m ²	- m ²	179,837 m ²				
合計	701,014 m ²	- m ²	- m ²	701,014 m ²					
校舎	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計					
	231,099 m ² (231,099 m ²)	- m ² (- m ²)	- m ² (- m ²)	231,099 m ² (231,099 m ²)					
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体			
	133室	198室	622室	21室 (補助職員12人)	4室 (補助職員1人)				
専任教員研究室		新設学部等の名称			室数				
		医学薬学教育部博士後期課程看護学専攻			19 室				
図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点		
	医学薬学教育部 看護学専攻	227,651 [105,243] (227,651 [105,243])	4,479 [2,213] (4,479 [2,213])	3,768 [2,737] (3,768 [2,737])	3,833 (3,833)	8 (8)	0 (0)		
	計	227,651 [105,243] (227,651 [105,243])	4,479 [2,213] (4,479 [2,213])	3,768 [2,737] (3,768 [2,737])	3,833 (3,833)	8 (8)	0 (0)		
							大学全体での共用分 図書(冊) 1,130,733 [335,379] 学術雑誌(種) 19,892 [5,428] 電子ジャーナル 7,537 [7,483] 視聴覚資料(点) 11,378 機械・器具(点) 26		
図書館	面積	閲覧座席数		収納可能冊数		大学全体			
	12,797m ²	1,248		1,019,672					
体育館	面積	体育館以外のスポーツ施設の概要							
	7,112 m ²	弓道場・武道館 プール・テニスコート							
経費の積り及び維持方法の概要	区分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	
	経費の見積り								
	教員1人当り研究費等	-	-	-	-	-	-	-	
	共同研究費等	-	-	-	-	-	-	-	
	図書購入費	-	-	-	-	-	-	-	
	設備購入費	-	-	-	-	-	-	-	
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
	817 千円	535 千円	535 千円	- 千円	- 千円	- 千円			
学生納付金以外の維持方法の概要		運営費交付金、附属病院収益、雑収入 等							

大 学 の 名 称	富山大学								所 在 地	
学 部 等 の 名 称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度			
	年	人	年次人	人		倍				
人文学部			3年次			1.03	昭和52	富山市五福3190番地	収容定員における編入学者数は、学部計に含める	
人文学科	4	185	7	740	学士（文学）	1.03	昭和52			
計		185	14	754						
人間発達科学部						1.02	平成17	富山市五福3190番地	収容定員における編入学者数は、学部計に含める	
発達教育学科	4	80	-	320	学士（教育学）	1.03	平成17			
人間環境システム学科	4	90	-	360	学士（教育学）	1.01	平成17			
計		170	-	680						
経済学部						1.03	昭和28	富山市五福3190番地	収容定員における編入学者数は、学部計に含める	
(昼間主コース)						1.02				
経済学科	4	135	3年次	540	学士（経済学）	1.02	昭和28			
経営学科	4	115		460	学士（経営学）	1.02	昭和49			
経営法学科	4	95		380	学士（法学）	1.02	昭和54			
(夜間主コース)				10			1.08			
経済学科	4	20	(各学科共通)	80	学士（経済学）	1.06	昭和61			
経営学科	4	20		80	学士（経営学）	1.10	昭和61			
経営法学科	4	20		80	学士（法学）	1.08	昭和61			
計		405		20	1640					
理学部						1.05	昭和52	富山市五福3190番地	収容定員における編入学者数は、学部計に含める	
数学科	4	50	3年次	200	学士（理学）	1.02	昭和52			
物理学科	4	40		160	学士（理学）	1.05	昭和52			
化学科	4	35		4	140	学士（理学）	1.04	昭和52		
生物学科	4	35	(各学科共通)	140	学士（理学）	1.11	昭和52			
地球科学科	4	40		160	学士（理学）	1.00	昭和52			
生物環境科学科	4	30		120	学士（理学）	1.10	平成5			
計		230		8	928					
医学部						1.00	昭和50	富山市杉谷2630番地	医学科の入学定員について平成21年度には定員を90→100に、平成22年度には100→105に変更	
医学科	6	105	2年次5	610	学士（医学）	1.00	昭和50			
看護学科	4	80	3年次10	320	学士（看護学）	1.00	平成5			
計		185	45	975					医学科入学定員のうち、5人は「緊急医師確保対策」に基づき、平成29年度までの措置	
薬学部						1.03	昭和24		収容定員における編入学者数は、学部計に含める	
薬学科	6	55	-	330	学士（薬学）	1.03	平成18			
創薬科学科	4	50	-	200	学士（薬科学）	1.04	平成18			
計		105	-	530						
工学部						1.04	昭和24	富山市五福3190番地	平成20年より学生募集停止 収容定員における編入学者数は、学部計に含める	
電気電子システム工学科	4	88	3年次	352	学士（工学）	1.05	平成9			
知能情報工学科	4	72		288	学士（工学）	1.02	平成9			
機械知能システム工学科	4	90		20	360	学士（工学）	1.09	平成9		
生命工学科	4	52		(各学科共通)	208	学士（工学）	1.02	平成20		
環境応用化学科	4	52	208		学士（工学）	1.01	平成20			
材料機能工学科	4	51	204		学士（工学）	1.01	平成20			
物質生命システム工学科	4	-	-		-		-			
計		405	40	1660						

既設大学等の状況	芸術文化学部						1.07	平成17	高岡市二上町180番地		
	芸術文化学科	4	115	-	460	学士(芸術文化学)	1.07	平成17			
	計		115	-	460						
	人文科学研究科 (修士課程)						0.87	昭和61	富山市五福3190番地		
	人文科学専攻	2	8	-	16	修士(文学)	0.87	平成23			
	計		8	-	16						
	人間発達科学研究科 (修士課程)						0.90	平成23	富山市五福3190番地		
	発達教育専攻	2	13	-	26	修士(教育学)	0.76	平成23			
	発達環境専攻	2	13	-	26	修士(教育学)	1.03	平成23			
	計		26	-	52						
	経済学研究科 (修士課程)						0.96	平成3	富山市五福3190番地		
	地域・経済政策専攻	2	6	-	12	修士(経済学)	1.08	平成3			
	企業経営専攻	2	12	-	24	修士(経営学)	0.91	平成3			
	計		18	-	36						
	芸術文化学研究科 (修士課程)						1.37	平成23	高岡市二上町180番地		
	芸術文化学専攻	2	8	-	16	修士(芸術文化学)	1.37	平成23			
	計		8	-	16						
	生命融合科学教育部 (博士課程)						0.66	平成18	富山市五福3190番地		
	認知・情動脳科学専攻	4	9	-	36	博士(医学)	0.74	平成18			
	生体情報システム科学専攻	3	4	-	12	博士(薬科学、理学又は工学)	0.75	平成18			
	先端ナノ・バイオ科学専攻	3	4	-	12	博士(薬科学、理学又は工学)	0.33	平成18			
	計		17	-	60						
	医学薬学教育部 (修士課程)							0.88	平成18	富山市杉谷2630番地	
	医科学専攻	2	15	-	30	修士(医科学)	0.86	平成18			
	看護学専攻	2	16	-	32	修士(看護学)	0.90	平成18			
	計		31	-	62						
	(博士前期課程)						1.42				
	薬科学専攻	2	35	-	70	修士(薬科学)	1.42	平成22			
	計		35	-	70						
	(博士後期課程)						1.58				
薬科学専攻	3	8	-	24	博士(薬科学)	1.58	平成24				
計		8	-	24							
(博士課程)						0.85					
生命・臨床医学専攻	4	18	-	72	博士(医学)	0.91	平成18				
東西統合医学専攻	4	7	-	28	博士(医学)	0.71	平成18				
薬学専攻	4	4	-	12	博士(薬学)	0.91	平成24				
生命薬科学専攻	3	-	-	-	博士(薬学)	-	平成18		平成24年より学生募集停止		
計		29	-	112							
医学系研究科 (博士課程)						-	昭和57	富山市杉谷2630番地			
医科学専攻	4	-	-	-	博士(医学)	-	平成16		平成18年より学生募集停止		

理工学教育部 (修士課程)							平成18	富山市五福3190番地	
数学専攻	2	8	-	16	修士(理学)	0.93	平成18		
物理学専攻	2	12	-	24	修士(理学)	0.99	平成18		
化学専攻	2	12	-	24	修士(理学)	0.78	平成18		
生物学専攻	2	12	-	24	修士(理学)	1.20	平成18		
地球化学専攻	2	10	-	20	修士(理学)	1.10	平成18		
生物環境科学専攻	2	10	-	20	修士(理学)	1.25	平成18		
電気電子システム工学専攻	2	33	-	66	修士(工学)	1.16	平成18		
知能情報工学専攻	2	27	-	54	修士(工学)	0.94	平成18		
機械知能システム工学専攻	2	33	-	66	修士(工学)	1.16	平成18		
生命工学専攻	2	18	-	36	修士(工学)	0.77	平成24		
環境応用化学専攻	2	22	-	44	修士(工学)	1.13	平成24		
材料機能工学専攻	2	20	-	40	修士(工学)	1.25	平成24		
物質生命システム工学専攻	2	-	-	-	修士(工学)	-	平成18		平成24年より学生募集停止
計		217	-	434					
(博士課程)									
数理・ヒューマンシステム科学専攻	3	5	-	15	博士(理学又は工学)	1.73	平成18		
ナノ新機能物質科学専攻	3	4	-	12	博士(理学又は工学)	1.33	平成18		平成24年から入学定員を6→4に変更
新エネルギー科学専攻	3	3	-	9	博士(理学又は工学)	1.33	平成18		平成24年から入学定員を5→3に変更
地球生命環境科学専攻	3	4	-	12	博士(理学又は工学)	1.41	平成18		平成24年から入学定員を5→4に変更
計		16	-	48					
附属施設の概要	<p>名称：附属病院 目的：診療を通じて医学、薬学の教育及び研究を行うことを目的とする。 所在地：富山市杉谷2630 設置年：昭和54年10月 規模等：建物 45,302㎡</p> <p>名称：和漢医薬学総合研究所 目的：和漢薬に関する学理及びその応用の研究を行うことを目的とする。 所在地：富山市杉谷2630 設置年：昭和49年6月(富山大学附置和漢薬研究所) 昭和53年6月(富山医科薬科大学附置和漢薬研究所) 規模等：建物 3,486㎡</p> <p>名称：附属図書館 目的：大学の理念・目標に基づき、教育及び研究に必要な図書、雑誌、データベースその他の資料を収集し、管理し、職員及び学生の利用に供することを目的とする。 所在地：(中央図書館) 富山市五福3190 (医薬学図書館) 富山市杉谷2630 (芸術文化図書館) 高岡市二上町180 設置年：(中央図書館) 昭和24年5月 (医薬学図書館) 昭和50年10月 (芸術文化図書館) 昭和62年3月 規模等：(中央図書館) 9,492㎡ (医薬学図書館) 2,227㎡ (芸術文化図書館) 1,078㎡</p> <p>名称：地域連携推進機構 目的：機構は、地域社会の自律的発展に貢献するため、地域の特性を生かした産業育成、社会人教育による市民生活の充実、地域課題解決への先導的役割等を果たすとともに、地域社会に対する窓口としての機能を果たすことを目的とする。 所在地：富山市五福3190、高岡市二上町180、富山市杉谷2630 設置年：平成20年7月 規模等：建物 4,686㎡</p>								

国立大学法人富山大学 設置認可等に関わる組織の移行表

平成26年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	平成27年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
富山大学				富山大学				
人文学部 人文学科	185	7	754	人文学部 人文学科	185	7	754	
人間発達科学部				人間発達科学部				
発達教育学科	80	-	320	発達教育学科	80	-	320	
人間環境システム学科	90	-	360	人間環境システム学科	90	-	360	
経済学部				経済学部				
経済学科	135	10	540	経済学科	135	10	540	
昼間主コース	(各学科)			昼間主コース	(各学科)			
夜間主コース	20	共通	80	夜間主コース	20	共通	80	
経営学科	115		460	経営学科	115		460	
昼間主コース	20		80	昼間主コース	20		80	
夜間主コース	95		380	夜間主コース	95		380	
経営法学科	20		80	経営法学科	20		80	
昼間主コース				昼間主コース				
夜間主コース				夜間主コース				
理学部				理学部				
数学科	50	4	200	数学科	50	4	200	
物理学科	40	(各学科)	160	物理学科	40	(各学科)	160	
化学科	35	共通	140	化学科	35	共通	140	
生物学科	35		140	生物学科	35		140	
地球科学科	40		160	地球科学科	40		160	
生物圏環境科学科	30		120	生物圏環境科学科	30		120	
医学部				医学部				
医学科	105	5	650	医学科	105	5	655	
看護学科	80	10	340	看護学科	80	10	340	
薬学部				薬学部				
薬学科	55	-	330	薬学科	55	-	330	
創薬科学科	50	-	200	創薬科学科	50	-	200	
工学部				工学部				
電気電子システム工学科	88	20	352	電気電子システム工学科	88	20	352	
知能情報工学科	72	(各学科)	288	知能情報工学科	72	(各学科)	288	
機械知能システム工学科	90	共通	360	機械知能システム工学科	90	共通	360	
生命工学科	52		208	生命工学科	52		208	
環境応用化学科	52		208	環境応用化学科	52		208	
材料機能工学科	51		204	材料機能工学科	51		204	
芸術文化学部 芸術文化学科	115	-	460	芸術文化学部 芸術文化学科	115	-	460	
計	1,800	56	7,642	計	1,800	56	7,642	
富山大学大学院				富山大学大学院				
人文科学研究科 人文科学専攻(M)	8	-	16	人文科学研究科 人文科学専攻(M)	8	-	16	
人間発達科学研究科				人間発達科学研究科				
発達教育専攻(M)	13	-	26	発達教育専攻(M)	13	-	26	
発達環境専攻(M)	13	-	26	発達環境専攻(M)	13	-	26	
経済学研究科				経済学研究科				
地域・経済政策専攻(M)	6	-	12	地域・経済政策専攻(M)	6	-	12	
企業経営専攻(M)	12	-	24	企業経営専攻(M)	12	-	24	
芸術文化学研究科 芸術文化学専攻(M)	8	-	16	芸術文化学研究科 芸術文化学専攻(M)	8	-	16	
生命融合科学教育部				生命融合科学教育部				
認知・情動脳科学専攻(D)(4年制)	9	-	36	認知・情動脳科学専攻(D)(4年制)	9	-	36	
生体情報システム科学専攻(D)	4	-	12	生体情報システム科学専攻(D)	4	-	12	
先端ナノバイオ科学専攻(D)	4	-	12	先端ナノバイオ科学専攻(D)	4	-	12	
医学薬学教育部				医学薬学教育部				
医科学専攻(M)	15	-	30	医科学専攻(M)	15	-	30	
看護学専攻(M)	16	-	32	看護学専攻(M)	16	-	32	
薬科学専攻(M)	35	-	70	薬科学専攻(M)	35	-	70	
薬科学専攻(D)	8	-	24	薬科学専攻(D)	8	-	24	
生命・臨床医学専攻(D)(4年制)	18	-	72	生命・臨床医学専攻(D)(4年制)	18	-	72	
東西統合医学専攻(D)(4年制)	7	-	28	東西統合医学専攻(D)(4年制)	7	-	28	
薬学専攻(D)(4年制)	4	-	16	薬学専攻(D)(4年制)	4	-	16	
看護学専攻(D)				看護学専攻(D)	3	-	9	専攻の設置(意見伺)
理工学教育部				理工学教育部				
数学専攻(M)	8	-	16	数学専攻(M)	8	-	16	
物理学専攻(M)	12	-	24	物理学専攻(M)	12	-	24	
化学専攻(M)	12	-	24	化学専攻(M)	12	-	24	
生物学専攻(M)	12	-	24	生物学専攻(M)	12	-	24	
地球科学専攻(M)	10	-	20	地球科学専攻(M)	10	-	20	
生物圏環境科学専攻(M)	10	-	20	生物圏環境科学専攻(M)	10	-	20	
電気電子システム工学専攻(M)	33	-	66	電気電子システム工学専攻(M)	33	-	66	
知能情報工学専攻(M)	27	-	54	知能情報工学専攻(M)	27	-	54	
機械知能システム工学専攻(M)	33	-	66	機械知能システム工学専攻(M)	33	-	66	
生命工学専攻(M)	18	-	36	生命工学専攻(M)	18	-	36	
環境応用化学専攻(M)	22	-	44	環境応用化学専攻(M)	22	-	44	
材料機能工学専攻(M)	20	-	40	材料機能工学専攻(M)	20	-	40	
数理・ヒューマンシステム科学専攻(D)	5	-	15	数理・ヒューマンシステム科学専攻(D)	5	-	15	
ナノ機能物質科学専攻(D)	4	-	12	ナノ機能物質科学専攻(D)	4	-	12	
新エネルギー科学専攻(D)	3	-	9	新エネルギー科学専攻(D)	3	-	9	
地球生命環境科学専攻(D)	4	-	12	地球生命環境科学専攻(D)	4	-	12	
計	413	-	934	計	416	-	943	

教 育 課 程 等 の 概 要														
（大学院医学薬学教育部看護学専攻（博士後期課程））														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
共通科目	看護学理論	1前	1			○			2					共同
	看護学研究方法論	1前	1			○			2					共同
	小計（2科目）	—	2	0	0	—			4	0	0	0	0	
基礎看護科学	基礎看護科学特論	1前		2		○			2	1				オムニバス・共同（一部）
	基礎看護科学演習	1後・2通		4			○		2	1				オムニバス・共同（一部）
	小計（2科目）	—	0	6	0	—			2	1	0	0	0	—
臨床科・学生体機能	臨床・生体機能看護科学特論	1前		2		○			5	1				オムニバス・共同（一部）
	臨床・生体機能看護科学演習	1後・2通		4			○		5					オムニバス・共同（一部）
	小計（2科目）	—	0	6	0	—			5	1	0	0	0	—
地域ケアシステム	地域ケアシステム看護科学特論	1前		2		○			1	3				オムニバス・共同（一部）
	地域ケアシステム看護科学演習	1後・2通		4			○		1	1				オムニバス・共同（一部）
	小計（2科目）	—	0	6	0	—			1	3	0	0	0	—
必修科目	看護特別研究	1後～3通	12					○	8	7				
合計（9科目）		—	14	18	0	—			8	7	0	0	0	—
学位又は称号	博士（看護学）		学位又は学科の分野			保健衛生学関係（看護学関係）								
修 了 要 件 及 び 履 修 方 法								授 業 期 間 等						
共通科目2単位を修得し、さらに各区分の選択科目のうち特論は2単位以上修得し、併せていずれか1つの区分の演習4単位を修得のうえ、特別研究12単位、合計20単位以上修得のうえ、当該課程に3年以上在学し、かつ、必要な研究指導を受けたうえ、博士論文の審査及び最終試験に合格すること。 （履修科目の登録の上限：20単位（年間））								1学年の学期区分				2期		
								1学期の授業期間				15週		
								1時限の授業時間				90分		

地域看護学	地域看護学特論Ⅰ	1・2前		2			○		1						オムニバス
	地域看護学特論Ⅱ	1・2後		2			○		1	1					オムニバス
	地域看護学特論Ⅲ	1・2前		2			○		1	1					オムニバス
	地域看護学演習	2通	4				○		2	2					
	地域看護学特別研究	2通	8					○	2	2					
小計（5科目）		—	12	6	0	—			2	2	0	0	0	0	—
合計（47科目）		—	72	74	0	—			10	11	0	0	0	兼3	—
学位又は称号		修士（看護学）		学位又は学科の分野				保健衛生学関係（看護学関係）							
修了要件及び履修方法								授業期間等							
<p>研究者コースにあつては、共通科目及び所属する分野以外の特論から16単位以上、並びに所属する分野の必修科目12単位及び選択科目から2単位以上、合計30単位以上修得のうえ、当該課程に2年以上在学し、かつ、必要な研究指導を受けたうえ、修士論文の審査及び試験に合格すること。</p> <p>母子看護学分野母性看護CNSコースにあつては、共通科目のうち*記号の科目から8単位以上、並びに母子看護学特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの6単位、周産期看護実践演習Ⅰ・Ⅱの6単位、周産期看護実習6単位及び母子看護学特別研究8単位、合計34単位以上修得のうえ、当該課程に2年以上在学し、かつ、必要な研究指導を受けたうえ、修士論文の審査及び試験に合格すること。</p> <p>（履修科目の登録の上限：20単位（年間））</p>								1学年の学期区分				2期			
								1学期の授業期間				15週			
								1時限の授業時間				90分			

教育課程等の概要														
(医学部看護学科)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	備考
人間文化系	哲学的人間学	1後		2		○			1					
	現代のエチカ	1・2前		2		○			1					
	科学技術論	1・2後		2		○			1					兼1
	文学論	1・2後		2		○								兼1
	日本の歴史と文化	1・2後		2		○				1				兼1
	西洋の歴史と文化	1・2前		2		○								兼1
	治療の文化史	1・2前		2		○				1				
	ジェンダー論	1後		2		○				1				
	人間と美	1・2前		2		○								兼1
	論理と表現	1・2前		2		○								兼1
	現代社会論	1・2前		2		○								兼1
	医と社会	1・2前		2		○								兼1
	現代社会と法	1・2前		2		○			1					
	日本国憲法	1・2後		2		○								兼1
	医療と法	1・2前後		2		○			1					
	経済学	1・2前		2		○								兼1
	医療と経済	1・2後		2		○								兼1
	現代の政治	1・2後		2		○								兼1
	比較地域構造論	1・2前		2		○								兼1
	異文化理解	1前		2		○			1					
	教育学	1・2前		2		○								兼1
	人間文化科学セミナー	1・2前後		2		○			3	1				
	日本事情	1前後		4		○			1					
小計 (23科目)		—	0	48	0	—	—	—	3	1	0	0	0	兼8
言語学系	英語 I	1前		1			○			2				兼1
	英語 II	1前		1			○		1	1				兼1
	英語 III	1後		1			○			1				兼2
	英語 IV	1後		1			○		1	2				
	英語 V	2前		1			○		1	1				兼1
	英語 VI	2後		1			○			1				
	英語 VII	3前		1			○							兼1
	独語 I	1前		1			○		1					
	独語 II	1後		1			○		1					
	仏語 I	1前		1			○							兼1
	仏語 II	1後		1			○							兼1
	中国語 I	1前		1			○							兼1
	中国語 II	1後		1			○							兼1
	日本語	1前後		2			○		1					
小計 (14科目)		—	0	15	0	—	—	—	3	3	0	0	0	兼7
生命科学系	心の科学	1前		2		○				1				
	行動科学	1後	2			○			1					
	身体と運動の科学	1前後	1					○	1					兼3
	健康・スポーツ科学	1後		2		○			1					兼1
	保健と福祉	1後		2		○								
	生体防御の戦略と戦術	2前後		2		○				1				
	運動と人間	2前後		2		○			1					
	認知科学	2後		2		○				1				
	感情学入門	2前		2		○			1					
	生命科学 I	1前	2			○			1	1		1		オムニバス
生命科学 II	1後	2			○			1	1		1		オムニバス	
小計 (11科目)		—	7	14	0	—	—	—	3	2	0	1	0	兼4
自然情報科学系	医療情報処理	1前	2			○			1					
	医療統計学	2後		2		○			1					
	数学	1前		2		○						1		兼1
	物理学	1前		2		○			1	1		1		オムニバス
	化学	1前		2		○			1	1		1		オムニバス
	現代物理学入門	1・2後		2		○			1	1		1		オムニバス
	統計数字の読み方	1・2後		2		○			1					
	生物無機化学入門	1・2後		2		○				1				
	自然現象のモデル化とその解析	1・2後		2		○			1					
	量子化学入門	1・2後		2		○			1					
小計 (10科目)		—	2	18	0	—	—	—	4	2	0	2	0	兼1

総合科目	富山大学学	1・2後		2	○		1								
	とやま地域学	1・2後		2	○									兼1	
	災害救援ボランティア論	1・2後		2	○									兼1	
	小計(3科目)	—	0	6	0	—	1	0	0	0	0	0	兼2	—	
専科	医療学入門	1前後	1		○		7	3		1			兼8	オムニバス	
	和漢医薬学入門	2前	1		○		10	6		3				オムニバス	
	生命倫理学	3前	1		○		1								
	形態機能学	1通	4		○		2	1	1					オムニバス	
	生化学(栄養学を含む)	1後	2		○		3	1						オムニバス	
	薬理学	2前	2		○		1								
	疾病学	2前	2		○		2								
	微生物学	2通	2		○			1							
	社会福祉学	2後	1		○								兼1		
	公衆衛生学	2前	1		○		1								
	疫学	3前	2		○		1								
小計(11科目)	—	19	0	0	—	25	11	1	4	0	兼9	—			
門教	看護学原論	1前	2		○		1								
	看護対象論	1後	1		○		1								
	看護方法論Ⅰ	1後	3		○		1	2		2					
	看護方法論Ⅱ	2前	3		○		1	2		2					
	看護方法論Ⅲ	2前	1		○		1	2		2					
	看護教育	3前	1		○		1								
	看護管理	3前	1		○		1								
	基礎看護学実習	2後	2			○	1	2		2					
	総合実習	4後	2			○	7	11		13	1				
	成人看護学総論	2前	2		○		1	2						オムニバス	
	成人臨床医学	2通	2		○		3							オムニバス	
	成人看護論Ⅰ	2後	2		○		1	2						オムニバス	
	成人看護論Ⅱ	3前	1		○		1	1						オムニバス	
	成人看護論Ⅲ	3後	2		○		1	1						オムニバス	
	成人看護学実習(慢性期)	3後～4前	3			○	1	1		1					
	成人看護学実習(周手術期)	3後～4前	3			○	1	1		1					
	精神看護学総論	2後	2		○		1	1		1				オムニバス	
	精神臨床医学	3後	1		○		1			1				オムニバス	
	精神看護論	3通	2		○		1	1		1				オムニバス	
	精神看護学実習	3後～4前	2			○	1	1		1					
	小児臨床医学	2後	2		○		1			1				オムニバス	
	小児看護学総論	2後	2		○		1	1						オムニバス	
	小児看護論	3通	2		○			1							
	小児看護学実習	3後～4前	2			○		1		2					
	母性臨床医学	2前	2		○		2							オムニバス	
	母性看護学総論	2前	2		○		1								
	母性看護論	2通	2		○		1								
	母性看護学実習	3後～4前	2			○	1	2		2					
	地域看護学総論	3前	2		○		1								
	地域看護方法論Ⅰ	3通	2		○			1							
	地域看護方法論Ⅱ	3通	2		○		1	1						オムニバス	
	ヘルスケアシステム論	3通	2		○			1							
地域看護学実習	4前	3			○	1	2		2						
在宅看護論	3後	2		○		1	1						オムニバス		
在宅看護学実習	4前	1		○		1	1								
老年看護学総論	3前	2		○		1	1		2				オムニバス		
老年臨床医学	3前	1		○		2							オムニバス		
老年看護論	3通	2		○		1	1		2				オムニバス		
老年看護学実習	3後～4前	3			○	1	1		2						
小計(39科目)	—	76	0	0	—	7	11	0	13	1	0	—			
選択科目	東洋の知と看護	3前		1	○		1								
	看護と臨床心理	3後		1	○								兼1		
	助産概論	3後		2	○		1								
	助産学ゼミナール	3後		1		○	1							—	
	最先端医療と看護	3後		1			1								
	看護英語	3後		1	○		1								
	感染看護	3後		1	○			1							
小計(7科目)	—	0	8	0	—	3	1	0	0	0	0	兼1	—		
看護研究	看護研究入門	3後	1		○		2								
	看護研究	4通	5			○	10	11							
	小計(2科目)	—	6	0	0	—	10	11	0	0	0	0			

自由 科目	助産診断学	4通			2	○			1						
	助産技術論	4前			2	○			1						
	助産管理	4後			2	○			1						
	助産学実習	4後			11		○		1	2		2			
	形態機能学演習	3後			1			○	2	1					
小計(5科目)			—	0	0	18		—	3	2	0	2	0	0	—
合計(125科目)			—	110	109	18		—	27	19	1	20	1	兼30	—
学位又は称号		学士(看護学)		学位又は学科の分野				保健衛生学関係(看護学関係)							
卒業要件及び履修方法								授業期間等							
必修科目110単位、人文学系科目から10単位以上、語学系科目から5単位以上、生命健康科学の選択科目から2単位以上、自然情報科学の選択科目から4単位以上、さらに人間文化科学、生命健康科学、自然情報科学、総合科目の選択科目から4単位以上及び選択科目から2単位以上を修得し、当該課程に4年以上在学すること。								1学年の学期区分				2期			
								1学期の授業期間				15週			
								1時限の授業時間				90分			

授 業 科 目 の 概 要			
(医学薬学教育部博士後期課程看護学専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目	看護学理論	(概要) 博士レベルの研究者が修得すべき、基本的な看護理論を概観的に捉え、各理論の見方・考え方・発展のさせ方について教授する。 (全7回) (① 西谷 美幸・⑧ 田村 須賀子)	共同
	看護学研究方法論	(概要) 博士レベルの研究者が修得すべき、基本的な看護研究方法論を概観的に捉え、看護の研究的アプローチの方法・発展のさせ方について教授する。 (全7回) (② 比嘉 勇人・⑦ 長谷川 ともみ)	共同
基礎看護科学	基礎看護科学特論	(概要) 個人・家族が本来もちうる能力・強み・回復力と多様性に着眼し、スピリチュアルも含め全人的・包括的に働きかける看護学の理論および研究を理解し、それぞれの概念を分析・統合するとともに実践知中心に追究する。具体的な看護科学の事象として、全人的ケアのあり方、看護学教育、メンタルヘルス、対人関係、セルフケア、ケアリング、スピリチュアルケア、等を扱う。 (オムニバス方式/全15回) (① 西谷 美幸・② 比嘉 勇人/3回) 個人・家族が本来もちうる能力・強み・回復力と多様性に着眼し、スピリチュアルも含め全人的・包括的に働きかける看護学について論述する。また「東洋の知」を取入れた医療(統合医療)の研究手法についても理解を深める。 (① 西谷 美幸・⑨ 坪田 恵子/6回) 個人・家族が本来もちうる能力・強み・回復力と多様性に着眼した基礎看護理論の概念を分析・統合するとともに、全人的ケアのあり方、看護学教育等の実践知への適用について論述する。 (② 比嘉 勇人/6回) メンタルヘルス及びスピリチュアルケア・対人関係に着眼した基礎看護理論の概念を分析・統合するとともに、全人的・包括的に働きかける看護学の基礎的理論について論述する。 看護理論の概念、看護学的研究方法論の構造及び看護学的研究方法論の適用について講義及び討議を行う。	オムニバス方式・共同(一部)
	基礎看護科学演習	(概要) 基礎看護科学に関連する研究方法、すなわち既にエビデンスが得られている方法、新たに開発されてきた方法、革新的で試行的な方法などを理解・体得し、有意性・問題点の判断を行う。自ら掲げた研究テーマに関する研究方法を選択・決定していく。 (オムニバス方式/全30回) (① 西谷 美幸・② 比嘉 勇人/10回) 個人・家族が本来もちうる能力・強み・回復力と多様性に着眼し、スピリチュアルも含め全人的・包括的に働きかける看護の研究手法について教授する。また、基礎看護科学の研究課題を追究するうえで具体的な先行研究を基に、研究方法の強み・弱みの判断・クリティークにより、研究目的に合った研究方法の選択決定方法、研究の進め方について教授するとともに、「東洋の知」を取入れた医療(統合医療)の研究手法についても理解を深める。 (① 西谷 美幸・⑨ 坪田 恵子/10回) 個人・家族が本来もちうる能力・強み・回復力と多様性、セルフケアに関する国内外の研究動向と理論的背景、看護学の知識体系・構造の分析・統合、理論の適用・論理の抽出、看護実践の再構築を迫る看護研究方法について教授する。 (② 比嘉 勇人/10回) メンタルヘルス及びスピリチュアルケア・対人関係・ケアリングに関する国内外の研究動向と理論的背景、基礎看護理論の概念を分析・統合、適用可能な概念モデルの作成、適用可能性の検討により、看護研究方法について教授する。選択した特論科目に関連する研究方法、すなわち既にエビデンスが得られている方法、新たに開発されてきた方法、革新的で試行的な方法などを理解・体得し、有意性・問題点の判断を行う。自ら掲げた研究テーマに関する研究方法を選択・決定していく。	オムニバス方式・共同(一部)

<p>臨床・生体機能看護科学</p>	<p>臨床・生体機能看護科学特論</p>	<p>(概要) 生体を構成する細胞の活性化を促し、血の巡りを促進させ、生体そのものがもつ抵抗力を引き出す看護基礎科学について、看護学の中での位置づけの検討とともに、実践知中心に追究する。 具体的な看護科学の事象として、患者のQOLを高める看護技術の生理学的評価・開発、生体防御、感染看護、創傷治癒、周手術期看護、がん緩和ケア、等を扱う。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(⑦ 長谷川 ともみ・③ 金森 昌彦／3回) 生体を構成する細胞の活性化を促し、血の巡りを促進させ、生体そのものがもつ抵抗力を引き出す看護基礎科学について論述する。また「東洋の知」を取入れた医療（統合医療）の研究手法についても理解を深める。</p> <p>(⑤ 八塚 美樹・③ 金森 昌彦／4回) 患者のQOLを高めるがん緩和ケア技術の開発と、生態を構成する細胞の活性化と血の巡りを促進させ、生体そのものが持つ抵抗力を引き出す看護基礎科学について、実践知中心に論述する。</p> <p>(⑥ 安田 智美・④ 堀 悦郎／4回) 患者のQOLを高める創傷治癒過程および周手術期の看護技術の開発、生理学的評価の開発と、生体を構成する細胞の活性化を促す看護基礎科学について、実践知中心に論述する。</p> <p>(⑦ 長谷川 ともみ・⑩ 吉井 美穂／4回) 患者のQOLを高める感染予防および生体防御能を高める看護技術の開発と、生体そのものがもつ抵抗力を引き出す看護基礎科学について、実践知中心に論述する。</p>	<p>オムニバス方式・共同（一部）</p>
	<p>臨床・生体機能看護科学演習</p>	<p>(概要) 臨床・生体機能看護科学に関連する研究方法、すなわち既にエビデンスが得られている方法、新たに開発されてきた方法、革新的で試行的な方法などを理解・体得し、有意性・問題点の判断を行う。自ら掲げた研究テーマに関する研究方法を選択・決定していく。</p> <p>(オムニバス方式／全30回)</p> <p>(⑦ 長谷川 ともみ・③ 金森 昌彦／10回) 生体を構成する細胞の活性化を促し血の巡りを促進させ、生体そのものがもつ抵抗力を引き出す看護の研究手法について教授する。また、臨床・生体機能看護科学の研究課題を追究するうえでの具体的な先行研究を基に、研究方法の強み・弱みの判断・クリティークにより、研究目的に合った研究方法の選択決定方法、研究の進め方について教授するとともに、「東洋の知」を取入れた医療（統合医療）の研究手法についても理解を深める。</p> <p>(⑤ 八塚 美樹・③ 金森 昌彦／8回) 患者のQOLを高めるがん緩和ケア技術の開発と、生態を構成する細胞の活性化と血の巡りを促進させ、生体そのものが持つ抵抗力を引き出す看護の研究手法について教授する。具体的には、疾病や療養生活のストレスを抱える患者とその家族を対象の自己の再生力・自然治癒力を活性化する生活因子を探究するとともにレジリエンス支援モデルの開発研究、疾病予防につなげるバイオセラピーの開発研究を例に看護研究方法を教授する。</p> <p>(⑥ 安田 智美・④ 堀 悦郎／8回) 患者のQOLを高める創傷治癒過程および周手術期の看護技術の開発、生理学的評価の開発と、生体を構成する細胞の活性化を促す看護の研究手法について教授する。具体的には、褥瘡予防のための看護技術の科学的評価と検証及び栄養評価等の開発及び障害を持つ患者の社会復帰のための支援、コミュニケーションの基礎的メカニズムの解明と行動生理学的な科学的検証研究を例に看護研究方法を教授する。</p> <p>(⑦ 長谷川 ともみ／4回) 患者のQOLを高める感染予防および生体防御能を高める看護技術の開発と、生体そのものがもつ抵抗力を引き出す看護の研究手法について教授する。具体的には、感染防御に関連する理論と科学的視点から看護実践に活用できる技術の開発研究、を例に看護研究方法を教授する。選択した特論科目に関連する研究方法、すなわち既にエビデンスが得られている方法、新たに開発されてきた方法、革新的で試行的な方法などを理解・体得し、有意性・問題点の判断を行う。自ら掲げた研究テーマに関する研究方法を選択・決定していく。</p>	<p>オムニバス方式・共同（一部）</p>

地域ケアシステム看護科学	地域ケアシステム看護科学特論	<p>(概要) コミュニティの形成と、コミュニティがもつ自助・共助の力を引き出し、そこで生活する個人・家族(集団)の助け合い・支え合いの醸成と、コミュニティの機能が持続可能な体制の構築、社会資源として機能する看護活動の在り方について実践知中心に追究する。 具体的な看護科学の事象として、コミュニティで機能する地区活動、家庭訪問、家族看護、地域包括ケアシステム、介護予防、在宅看護推進システム、生活習慣病予防、地域職域連携、等を扱う。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(⑧ 田村 須賀子・⑭ 新鞍 真理子/3回) コミュニティの形成と、コミュニティがもつ自助・共助の力を引き出し、そこで生活する個人・家族(集団)の助け合い・支え合いの醸成と、コミュニティの機能が持続可能な体制の構築、社会資源として機能する看護科学について論述する。また「東洋の知」を取入れた医療(統合医療)の研究手法についても理解を深める。</p> <p>(⑧ 田村 須賀子・⑮ 中林 美奈子/6回) 地域ケアシステム看護の立場から追究すべき研究課題及び地域ケアシステム看護における主要な概念・理論、とくに地域で生活する個人・家族(集団)の助け合い・支え合いの醸成と、コミュニティの機能が持続可能な体制の構築に関する実践知について論述する。</p> <p>(⑭ 新鞍 真理子・⑯ 須永 恭子/6回) 地域ケアシステム看護、すなわち地域住民を家族単位で捉え、人々が生活を営む背景・所属集団を対象とした看護における主要な概念・理論、とくに地域包括ケアシステム、介護予防、在宅看護推進システム等の、社会資源として機能する看護活動に関する実践知について論述する。</p>	オムニバス方式・共同(一部)
	地域ケアシステム看護科学演習	<p>(概要) 地域ケアシステム看護科学に関連する研究方法、すなわち既にエビデンスが得られている方法、新たに開発されてきた方法、革新的で試行的な方法などを理解・体得し、有意性・問題点の判断を行う。自ら掲げた研究テーマに関する研究方法を選択・決定していく。</p> <p>(オムニバス方式/全30回)</p> <p>(⑧ 田村 須賀子・⑭ 新鞍 真理子/10回) コミュニティの形成と、コミュニティがもつ自助・共助の力を引き出し、そこで生活する個人・家族(集団)の助け合い・支え合いの醸成と、コミュニティの機能が持続可能な体制の構築、社会資源として機能する看護の研究手法について教授する。また、地域ケアシステム看護科学の研究課題を追究するうえでの具体的な先行研究を基に、研究方法の強み・弱みの判断・クリティークにより、研究目的に合った研究方法の選択決定方法、研究の進め方について教授するとともに、「東洋の知」を取入れた医療(統合医療)の研究手法についても理解を深める。</p> <p>(⑧ 田村 須賀子/10回) 地域ケアシステム看護の立場から追究すべき研究課題及び地域ケアシステム看護における主要な概念・理論、とくに地域で生活する個人・家族(集団)の助け合い・支え合いの醸成と、コミュニティの機能が持続可能な体制の構築に関する看護の研究手法について教授する。具体的には、コミュニティで機能する地区活動、家庭訪問、家族看護、地域包括ケアシステムに関する質的記述研究方法を例に教授する。</p> <p>(⑭ 新鞍 真理子/10回) 地域ケアシステム看護における主要な概念・理論、とくに地域包括ケアシステム、介護予防、在宅看護推進システム等の、社会資源として機能する看護の研究手法について教授する。具体的には、疫学・社会学的調査研究方法を例に教授する。選択した特論科目に関連する研究方法、すなわち既にエビデンスが得られている方法、新たに開発されてきた方法、革新的で試行的な方法などを理解・体得し、有意性・問題点の判断を行う。自ら掲げた研究テーマに関する研究方法を選択・決定していく。</p>	オムニバス方式・共同(一部)

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">必修科目</p>	<p>看護特別研究</p>	<p>(概要) 看護学の研究者として一連の研究プロセスを自律して遂行・展開でき、看護実践領域に寄与できる研究推進能力を形成するために、学位論文作成過程を指導する。</p> <p>(① 西谷 美幸) 看護実践の現象と理論をつなぐ研究方法を駆使することにより、実践の科学としての看護学の構造の明確化と実践知の創出に関する研究を指導する。</p> <p>(② 比嘉 勇人) 量的または質的な看護研究方法のアプローチにより、メンタルヘルスおよびスピリチュアルケアに関する看護現象に焦点を当てた研究を指導する。</p> <p>(③ 金森 昌彦) 看護実践に東洋医学的な未病の概念を取り入れるために、食事習慣・生活習慣を改善し、疾病予防につなげるバイオセラピーの開発研究に関する研究を指導する。</p> <p>(④ 堀 悦郎) 非言語的コミュニケーション要素について、行動科学的、生理学的、神経心理学的及び認知心理学的側面からのアプローチにより、日常的な看護業務に必要なコミュニケーションの基礎的メカニズムに関する研究を指導する。</p> <p>(⑤ 八塚 美樹) 慢性の病い（主としてがん）や回復の見込みがないと診断され、疾病や療養生活のストレスを抱える患者とその家族、および高い就業ストレスとセルフマネジメント能力が必要とされる看護職を対象とした、自己の再生力、自然治癒力を活性化する生活因子の探究とレジリエンス支援モデルの開発に関する、研究を指導する。</p> <p>(⑥ 安田 智美) 褥瘡予防のための看護技術の評価と検証、栄養評価等の開発及び障害を持つ患者の社会復帰のための教育及び支援法などに関する研究を指導する。</p> <p>(⑦ 長谷川 ともみ) ヒトの生体防御システム、特に感染防御の視点から看護実践に応用できる技術開発と、実験操作の手法を用いた評価に関する研究を指導する。</p> <p>(⑧ 田村 須賀子) 個人と家族が対象である家庭訪問や、地域住民に働きかける保健サービスの事業・施策化・健康な地域づくり活動における看護過程を捉えることにより、コミュニティで生活を営む個人と家族、生活共同体・地域住民集団に対する看護援助の特質を追究する看護研究を指導する。</p> <p>(⑨ 坪田 恵子) 健康問題を抱えている人々に対してセルフケア能力を高めていくための支援のあり方に関する研究を指導する。</p> <p>(⑩ 吉井 美穂) 感染看護領域に関する技術を科学的根拠に基づいて確立させることにより、生活文化の中に根付いた看護学の知見として構築させる研究を指導する。</p> <p>(⑪ 四十竹 美千代) 看護技術の生理学的評価を行うことにより、患者のQOL向上のための根拠に基づいた看護の働きかけと質向上に関する研究を指導する。</p>
---	---------------	--

	<p>(13) 笹野 京子) 周産期の母子とその家族への心理的適応に関する研究および介入に向けた研究を指導する。また、女性の生涯にわたる健康に関わる研究を指導する。</p> <p>(14) 新鞍 真理子) 高齢者とその家族に対して、個人や集団の伝統的な価値観や生活様式を尊重した日本型サクセスフルエイジングを目指す看護に関する研究を指導する。</p> <p>(15) 中林 美奈子) コミュニティの現状と問題を科学的根拠に基づき分析・把握・予測し、ステークホルダーとの協働による研究体制のもと、フィールドにおける実践的研究を実施することにより、コミュニティを基盤とした看護実践のあり方に関する研究を指導する。</p> <p>(16) 須永 恭子) 超高齢社会において、医療、介護、暮らし、健康増進、疾病予防を組み入れた包括ケアと地域を基盤とするケア体制を構築し、看護専門職者として人々の健康と暮らしの支援を軸とした理論構築、システム開発を目指す研究指導を行う。また共生のまちづくりに視点を置いた、多職種との連携と組織のマネジメント、政策・制度・慣習や文化を活用し、経済的効果とQOL向上に関する研究を指導する。</p>	
--	---	--